

《履修上の留意事項》指定した教科書に基づいて実施することを基本とし、試験範囲は教科書および講義の範囲とする。教科書をよく読んで講義を受けること。

《担当者名》○泉唯史 izumi@hoku-iryo-u.ac.jp 鎌田樹寛 田村至 飯田貴俊

【概要】

リハビリテーションの概念と定義、障害者処遇の歴史、障害・障害者と国際基準、障害者心理、リハビリテーションの4つの側面とわが国の障害者施策（障害者基本法、障害者総合支援法など）について学ぶ。またリハビリテーションのコアとなる理学療法、作業療法、言語聴覚療法のそれぞれの概要および医療チームにおける役割と連携について学ぶ。この学びを通ることにより、以後学習する科目への準備状況を整える。

【学修目標】

将来従事する職種に必要な知識や技術を習得することを促すために、リハビリテーションを理解する。

1. リハビリテーションの概念を説明することができる。
2. リハビリテーションの定義を説明することができる。
3. 障害者に対する処遇の歴史を説明することができる。
4. 障害・障害者と国際基準を説明することができる。
5. 障害者心理を説明することができる。
6. リハビリテーションの4つの側面を説明することができる。
7. わが国の障害者施策（障害者基本法、障害者総合支援法など）を説明することができる。
8. 疾病と障害の構造およびそれに対する理学療法の概略について説明することができる。
9. 作業療法の守備範囲（各対象領域、代表的な疾患や障害特性の概略など）について説明することができる。
10. 言語聴覚療法領域のリハビリテーションの概要及びチーム医療における言語聴覚士の役割について説明することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	理念とリハビリテーションの構造	リハビリテーションの概念や定義に関する歴史的な変遷とその背景	泉 唯史
2	リハビリテーションのエトス	リハビリテーションの範囲やその考えかた	泉 唯史
3	障害のとらえかた	ICDからICIDH、ICFへ、変遷と時代背景	泉 唯史
4	権利尊重	人権の考えかた	泉 唯史
5	リハビリテーション医学と理学療法	リハビリテーションに関する国内外の歴史と現代の課題 理学療法の歴史と理学療法士の役割	泉 唯史
6	医学的リハビリテーションにおける作業療法とその守備範囲	1. 作業療法や作業療法士の役割とは 2. 発達領域に対する作業療法とは	鎌田樹寛
7	医学的リハビリテーションにおける作業療法とその守備範囲	1. 身体障害領域に対する作業療法とは 2. 高次脳機能障害に対する作業療法とは	鎌田樹寛
8	医学的リハビリテーションにおける作業療法とその守備範囲	1. 老年期領域に対する作業療法とは 2. 終末期（ターミナル）に対する作業療法とは	鎌田樹寛
9	医学的リハビリテーションにおける作業療法とその守備範囲	「精神科作業療法」の領域として 精神障害者の処遇（日本）や法制度の変遷とは	鎌田樹寛
10	医学的リハビリテーションにおける作業療法とその守備範囲	「精神科作業療法」の領域として 精神障害領域に対する作業療法とは	鎌田樹寛
11	リハビリテーションと言語聴覚療法（1）	言語聴覚領域のリハビリテーション	田村至
12	リハビリテーションと言語聴覚療法（2）	言語聴覚領域のリハビリテーション（失語・高次脳機能障害）	田村至
13	リハビリテーションと言語聴覚療法（3）	言語聴覚領域のリハビリテーション（失語・高次脳機能障害）	田村至 オンデマンド

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14	リハビリテーションと言語聴覚療法 (4)	言語聴覚領域のリハビリテーション(摂食嚥下障害)	飯田貴俊
15	リハビリテーションと言語聴覚療法 (5)	言語聴覚領域のリハビリテーション(摂食嚥下障害)	飯田貴俊

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

泉担当分 期末試験100%

鎌田担当分 期末試験100%

田村担当分 期末試験+レポート100%

飯田担当分 期末試験100%

【教科書】

上田敏 他 編 「標準リハビリテーション医学 第3版」 医学書院 2012年

【参考書】

上田敏 「リハビリテーションを考える-障害者の全人間的復権-」 青木書店 1983年

中村隆一 他 編 「入門リハビリテーション概論」 医歯薬出版 2013年

千野直一 他 編 「現代リハビリテーション医学」 金原出版 2009年

松井亮輔・川島聡 他 編 「概説 障害者権利条約」 法律文化社 2010年

日本職業リハビリテーション学会 編 「職業リハビリテーションの基礎と実践」 中央法規 2012年

その他、必要があれば講義の中で紹介する。

【学修の準備】

予習では、教科書のテーマの内容に関する部分と参考書を読んでおくこと(80分)。

用語の読みや意味を調べ、課題レポートに取り組むこと(80分)。

復習では、教科書と講義で配布された資料を整理すること(80分)。

自己のノートを整理し、必要な情報を検索すること(80分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP2)最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

(DP3)言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

泉唯史(理学療法士)

鎌田樹寛(作業療法士)

田村至(言語聴覚士)

飯田貴俊(歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、理学療法部門のリハビリテーションについて講義を行う。

医療機関での臨床経験を活かし、作業療法部門のリハビリテーションについて講義を行う。

医療機関での臨床経験を活かし、言語聴覚部門のリハビリテーションについて講義を行う。